

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0873900484		
法人名	社会福祉法人 聖隷会		
事業所名	グループホーム 霞ヶ浦の里	ユニット名(なのはな棟)	
所在地	かすみがうら市男神356-1		
自己評価作成日	令和 3 年 10 月 27 日	評価結果市町村受理日	令和 4 年 1 月 24 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyosyoCd=0873900484-00&ServiceCd=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 いばらき社会福祉サポート
所在地	水戸市大工町1-2-3 トモスみとビル4階
訪問調査日	令和3年12月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様の今までの人生で培った価値観、人生観を尊重する介護を目指しています。家庭的な雰囲気の中で、職員一人一人が利用者様と生活を共にしていることを意識し、ゆっくりと関わりを持つようにし、落ち着いた環境でゆっくりとコミュニケーションをとり、居心地良い温かい生活、安心・安全な生活が送れるよう努めていきます。隣接する特別養護老人ホームや保育園との交流や四季折々の行事を企画実行し、皆様方が集い交流を深める機会を設けていきます。そこで、昔遊んだことや、それぞれの風習を話し合い、当時は偲んで頂き、これからの人生を送る糧にして頂ければと思います。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

広い敷地内に同法人の特別養護老人ホームやデイサービスが有り、お互い連携しながら業務を行うことが出来、職員や利用者の安心に繋がっている。隣接する保育園の園児が訪れたり運動会に参加してもらうなど、地域の交流に努めている。コロナ禍で外出が制限されている事を踏まえ移動販売車に来てもらい、利用者が買い物を楽しみながら気分転換が出来るよう工夫している。家庭的な雰囲気の中で、職員は利用者一人ひとりに寄り添い、行動を制限することなくその人らしい生活が送れるよう支援している。管理者は日頃から職員に話しかけコミュニケーションを図り、何でも話せる関係を築くとともに、働きやすい環境づくりに努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	独自の理念を作り、玄関に掲示しています	理念を各ユニットの玄関に掲示して職員間で共有するとともに、ユニットごとの目標を作成している。理念を意識し、家族等とのかかわりを密にするため利用者と家族等との手紙のやりとりを支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現在は、コロナ禍の為交流は行っていませんが、かすみがうら市の行事に参加したり、ボランティアの方に施設の行事の時に来て頂き交流を図っておりました。また、隣接する特養、保育園との交流も行ってました。	コロナ禍の現在は、地域の人達との交流は中止しているが、近隣の農家の人達が大豆や白菜、さつまいもなどの作物を差し入れてくれるなどで、交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ボランティア、運営推進会議、在宅の方より情報、意見を聞いて、地域の理解が得られるようにしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者様の状況やサービス内容、評価への取組等の報告をして意見交換を行い、サービス向上に努めています。	コロナ禍のため外部の人の参加なしで行い、議事録を構成メンバーに手渡しまたは郵送している。事業所の実情や空き情報を伝えたところ、委員でもある民生委員から紹介があり入居となった利用者がある。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日頃から連携を図り、事業所の実情を伝え、協力関係を築くように取り組んでいます。コロナ禍でなければ、介護相談員が月1回来訪された際にご意見を頂いています。	運営推進会議時や日常的に事業所の実情を伝え、連携を図りながら、協力体制を築いている。利用者の介護保険更新時や生活保護利用の利用者の相談などで市担当者を訪れながら協力体制を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠、身体拘束は行っていません。危険性のある利用者様に対しては、全職員で話し合い、誘発する原因を取り除くよう努めています。転倒の危険性のある利用者様には、一対一でのケアを行っています。	身体拘束等の適正化のための対策を検討する委員会設置(指針の作成)と3ヶ月に1回の開催を実施している。職員は外部研修を受け、研修内容を回覧して全員で確認し、把握するようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修等に参加し、常に利用者様の立場になる事を再確認すると共に、情報を共有し、全職員の意識向上に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内勉強会を通して知識を共有しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用時に文書及び口頭で分かり易く説明し、納得して頂いたうえで契約しています。関係者とよく話し合い、相互に納得するようにしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員全員が要望や意見を聞くように努めています。出来る事は速やかに行い、検討が必要な時は、家族と連絡を取り相談しています。	面会時には必ず声かけを行い、意見や要望、困りごとはないかなど聴くように努めている。利用料の支払いは、家族等が持参する仕組みをとっていることから、その際に何か意見や要望はないか聴くように努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や棟会議にて職員の意見や提案を言える機会を設けています。	職員会議時やその他随時行っている棟会議や朝、夕礼時に話を聞くようにしている。職員から出た意見により利用者のおやつの出し方などに配慮している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人に合わせた指導、助言を行い、資質の向上を図り、意見が反映でき、働きやす環境作りに努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員全員がマナー講習と上級救命講習を受けています。また、研修会に参加し、学ぶ機会が与えられています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同敷地内に併設する特養の職員と意見交換の場を設けて、サービスの向上に努めています。施設同士での情報交換や勉強会を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	受容、傾聴、共感を忘れずに利用者様の思いを把握して、信頼関係を築き、不安なく過ごしていただけるよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用前に家族等が困っている事、何の援助を求めているかを把握し、相談しながら信頼関係を築けるよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の希望を伺い、必要としている事を見極め、状況に応じた支援を行っています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	どんな些細な事でも話し合ったり、相談したりして、支え合う関係を築けるように努めています。また、日常生活の中で職員と一緒にモップかけ、洗濯物たたみ等を行っています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との関係を把握し、面会、外出、外泊、電話等を通じて家族との絆を大切にし、支えていけるよう努めています。(現在は、外出、外泊等は行っていません)		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様の友人や教え子等の面会、手紙、外出、外泊、電話等を通じて、馴染みの関係が途切れないように支援しています。(現在は、外出、外泊等は行っていません)	入居時の生活歴や利用者、家族等から話を聴いて、これまでの馴染みの関係把握に努めている。把握した情報は、フェイスシートやケース記録にて管理し、職員が共有できるようにしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う利用者同士を近くの席にしたり、職員が利用者の中に入り、コミュニケーションの橋渡しをしながら、孤立せずにお互いに支え合えるように支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院時のお見舞いや、亡くなった方の告別式の参列等、退所後のつながりを大切にしています。契約終了後も相談に応じたり、関係施設を紹介しています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの希望を把握して、本人の希望に沿えるように努めています。困難な場所では職員、家族間で意見交換し、利用者様の立場で考え支援するようにしています。	利用者との日々の会話や関わりで希望や意向を把握しているほか、表出困難な利用者とは、態度や表情から汲み取り職員間で相談しながら把握するように努めている。利用者の希望を叶えられるよう、傾聴に力を入れている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時にサマリー、個人情報表、家族からの情報収集、利用者様との対話により把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタルチェック、生活記録簿を個別に作り、心身状態の見守り、観察、を常に行い、状態把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の意向を重視し、自分らしい生活が送れるよう介護計画を作成しています。状況に応じてカンファレンスを実施し、モニタリングを行っています。	口腔・整容・更衣・洗面等に関するケア用紙を作成し、1ヶ月ごとに丁寧にモニタリングを行っている。基本1年で見直しを行っているが利用者や家族等の要望や状態に変化が生じた場合は随時見直ししている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者様の日々の様子を記録して、職員間で情報を共有し、よりよい個別ケアを提供できるよう介護計画の見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の状況に応じて、通院、買い物等必要な支援は柔軟に対応出来るように取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の機関、民生委員、ボランティア等、必要に応じて協力が得られています。地域消防署の協力による避難訓練、ボランティアによる演奏会への参加等を通じて楽しんでいただけるように支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望を伺い、適切な医療が受けられるように対応しています。	かかりつけ医の受診の付き添いは家族が基本であるが、現在はほとんど職員が支援しているため、受診に同行した時や電話対応で医師と情報交換している。家族等が付き添う時は、利用者の状態を紙に書いて家族等に渡し、医師に伝えてもらっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	隣接している特養の看護師と連絡を密にしながら、利用者様に変化があった時に相談し、指示や指導を受け、協力を得ています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中はこまめに面会に行き、本人、家族や病院関係者との情報交換や相談に努め、話し合う機会を設け、早期に退院できるように支援していきます。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所の際、重度化した場合に当施設で出来る事、出来ない事を説明し理解を得ています。看取りは、行っていないため、利用者様の状態の変化によって関連施設への入所を提案しています。	入居時に重度化や看取りに関する説明をし、事業所では看取りを行わないことや関連施設への斡旋などでの対応などを伝えながら、同意書を得ている。重度化についてのマニュアルの作成や職員への研修を実施するまでには至っていない。	前回の課題であった重度化についてのマニュアルの作成と職員への研修が達成されていないので、再度達成に向け期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員が上級救命講習を受講しており、急変や事故発生に対応出来るようにしています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練、避難訓練を年2回消防署立ち会いで行っています。また、毎月地震や火災発生を想定して避難訓練を実施しています。地域の住民の方に働きかけ、協力体制を築いています。	消防署立ち会いで特別養護老人ホームと合同で年2回、グループホーム独自の自主訓練を毎月1回行っている。訓練後の反省と感想については記録があるが全体の反省会とはなっていない。	反省会を行い課題を明確に抽出して安全な避難方法を検討し、次回に繋げていくことを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の人格やプライバシーに配慮し相手のペースに合わせて声掛け、傾聴しています。	企業全体の職員を対象にしたアンケート調査の結果を踏まえて人権尊重に関して理解不足であることが分かったが、研修を行ったり話し合いをするまでには至っていない。	職員に人権尊重や守秘義務についての研修を実施し、日々のケアに役立つことを期待する。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で、自分の思いや希望が叶えられるよう、利用者様が分かる話し方で支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合で行動せず、基本的に利用者様のペースで自由な生活が送れるよう支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望の洋服を買いに行く、月1回の訪問理容で散髪する、美容室に出かける等をして、その人らしいおしゃれが出来るよう支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や片付けは出来る範囲で、一緒に行っています。利用者様と一緒にテーブルを囲み和やかな雰囲気です。毎日の夕食や行事がある時は職員も同じ食事を摂っています。	隣接の特別養護老人ホームの栄養士が献立を作成しており、利用者の苦手な物を伝え、職員が調理している。利用者の状態に応じた形態での食事を取り入れて、食事がスムーズに食べられるように配慮している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士による献立を調理しています。一人ひとりに合わせて常食、お粥、刻み食、ペースト食を提供し、食事、水分量の記録をしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行っています。できない方は職員が介助にて行い清潔を保っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、羞恥心に配慮した声掛け、誘導、介助を行い、おむつ等を使用する時間を減らし、自立に向けた支援をしています。	「生活記録簿」にて尿と食事摂取量を把握し、「排便チェック表」にてスムーズな排便に繋がるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分不足に注意し、食物繊維の多い食材を取り入れています。日常生活の中で身体を動かすように散歩、ラジオ体操を行っています。また、排便チェック表にて状態を把握し対応しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は毎日実施しています。一人ひとりの希望や、その日の体調に合わせて入浴を楽しめるように対応しています。	入浴は毎日実施し、浴室にはシャワーキャリーや滑り止めシートを準備して安全な入浴に配慮したり、脱衣場には、畳1畳程の腰かけられるスペースがあり、ゆっくりと入浴が出来るようになっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	心体の状態や生活習慣、希望に合わせて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	朝・昼・夕は色別にし、一包毎に日付を記入し、名前が書いてあるケースに入れて管理しています。処方箋をファイルし、全職員が把握できるようにしてあります。また、服薬できているか確認を行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の特技、趣味を活かして楽しみ場面作りを行っています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在はコロナ禍の為行っていませんが、ドライブ、外食、買い物等、外出する機会を設けていました。また、ご家族様の協力のもと、一緒に出掛けられることもありました。	事業所内の「憩いの広場」に椅子とテーブルを置いて、気軽に外気浴ができる環境にしている。定期的に移動販売の店が来訪し、利用者が買い物を楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理の可能な方は、家族の了承の上、所持していただき、希望に応じて一緒に買い物に行ったり、買い物代行する支援をしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はいつでもやり取りができるようにしています。また、手紙を書かれる方は、書いたものを預かり、投函しています。本人が安心できるよう翌日には出した事を伝えています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは明るい空間になるよう心掛けています。陽の光はカーテンで調整し、テレビの音量は不快感のないよう配慮しています。花や季節の絵等を飾って季節感を出し、日々心地良く過ごせるようにしています。	玄関は広いスロープになっており、車椅子の利用者も安全に移動ができる。各ユニットを繋ぐ外廊下の中央に「憩いの広場」があり、テーブルと椅子を設置し、利用者がいつでも外気浴を楽しめるよう工夫されている。食堂兼居間は天窓があり、明るく広々とした開放的な空間になっている。壁には手作りの作品が飾って有り温かさを感じられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングは陽当たりが良く、窓越しより季節感を感じる事ができ、空間が広いので、一人ひとりが自由に過ごしていただいています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様の使い慣れた馴染みの物等を置き、家庭的な雰囲気の中で安心して居心地良く過ごせるよう工夫しています。	管理者は自宅で使用していた馴染みの物を持ち込んで欲しいと利用者や家族等に伝えられている。利用者の趣味でもある観葉植物を持ち込んだりしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりのできる事を見極めて、安全に生活が送れるように居室、浴室、トイレ等、分かり易い目印を付け、自立した生活が送れるように支援しています。		

(別紙4(2))

目標達成計画

事業所名 グループホーム霞ヶ浦の里

作成日 令和 4年 1月24日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに次のステップへ向けて取り組む目標を職員一同で話し合いながら作成します。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくなならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	33	重度化についてのマニュアルの作成や職員への研修を実施するまでに至っていない。	重度化についてマニュアルを作成し、職員への研修を行い全員が理解できるようにする。	重度化マニュアルは、職員が分かるように明確に記し、施設内研修や棟会議等において全員が共有し理解できるよう努めていく。	12ヶ月
2	35	避難訓練後に全体の反省会を行っていない。	避難訓練後に反省会を行い、課題を明確に抽出して安全な避難方法を検討し次回に繋げていく。	避難訓練後反省会を行い、課題を明確に抽出し安全な避難方法を検討し、職員会議、棟会議等を利用して全職員が共有し対応出来るよう努めていく。	12ヶ月
3	36	人権尊重に関して理解不足であることが分かったが、研修を行ったり話し合いを行っていない。	職員に対し人権尊重や守秘義務についての研修を実施し、日々のケアに役立てるようにする。	施設内研修や職員会議、棟会議等において人権尊重や守秘義務について職員全員が理解し日々のケアに役立てられるように努めていく。	12ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注1) 項目番号の欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。